

霧島山（新燃岳）の火山活動解説資料

福岡管区气象台
地域火山監視・警報センター
鹿児島地方气象台

< 火口周辺警報（噴火警戒レベル 2、火口周辺規制）が継続 >

新燃岳では、9月23日頃から火山性地震が増加しています。また、火山性微動が昨日（9日）から本日（10日）にかけて発生しています。

本日、鹿児島県の協力により気象庁機動調査班（JMA-MOT）が実施した航空機上観測では、火口内の噴煙は前回（9月28日）の観測と比較して明らかに増加しており、火口内からまとまった白色の噴煙が高さ400mまで上がっていました。西側斜面の割れ目付近と割れ目下方では噴気の状態に特段の変化は認められませんでした。また、新燃岳の火口内及び火口周辺では火山灰等の噴出物は観測されませんでした。

新燃岳では、今後小規模な噴火が発生するおそれがあります。火口から概ね1kmの範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒してください。

噴火時には、風下側で火山灰だけでなく小さな噴石（火山れき）が風に流されて降るおそれがあるため注意してください。

活動概況

・噴煙などの表面現象の状況（図1～3）

本日（10日）、鹿児島県の協力により気象庁機動調査班（JMA-MOT）が実施した航空機上観測では、火口内の噴煙は前回（9月28日）の観測と比較して明らかに増加しており、火口内からまとまった白色の噴煙が高さ400mまで上がっていました。西側斜面の割れ目付近と割れ目下方では噴気の状態に特段の変化は認められませんでした。新燃岳の火口内及び火口周辺では火山灰等の噴出物は観測されませんでした。また、明らかに感じる程度の火山ガスの臭気を感じました。監視カメラによる観測では、白色の噴煙が火口縁上600mまで上がりました。

・地震や微動の状況（図1）

火山性微動は昨日（9日）13時以降、時々発生しています。昨日15時12分頃から15時53分頃まで傾斜変動を伴う火山性微動が発生しました。昨日22時過ぎに発生した火山性微動は現在（10日17時）も継続しています。

火山性地震は、多い状態で経過しているものと推定されますが、火山性微動が時々大きくなっており、見かけ上、火山性地震の回数が少なく計数されています。

・地殻変動の状況（図1）

昨日15時12分頃に発生した火山性微動に伴う傾斜変動を観測しました。それ以降、特段の変化は認められていません。

この火山活動解説資料は福岡管区气象台ホームページ（<http://www.jma-net.go.jp/fukuoka/>）や気象庁ホームページ（http://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/STOCK/monthly_v-act_doc/monthly_vact.php）でも閲覧することができます。

この資料は気象庁のほか、東京大学、九州大学、鹿児島大学、国立研究開発法人防災科学技術研究所及び宮崎県のデータも利用して作成しています。

資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『数値地図50mメッシュ（標高）』を使用しています（承認番号：平26情使、第578号）。

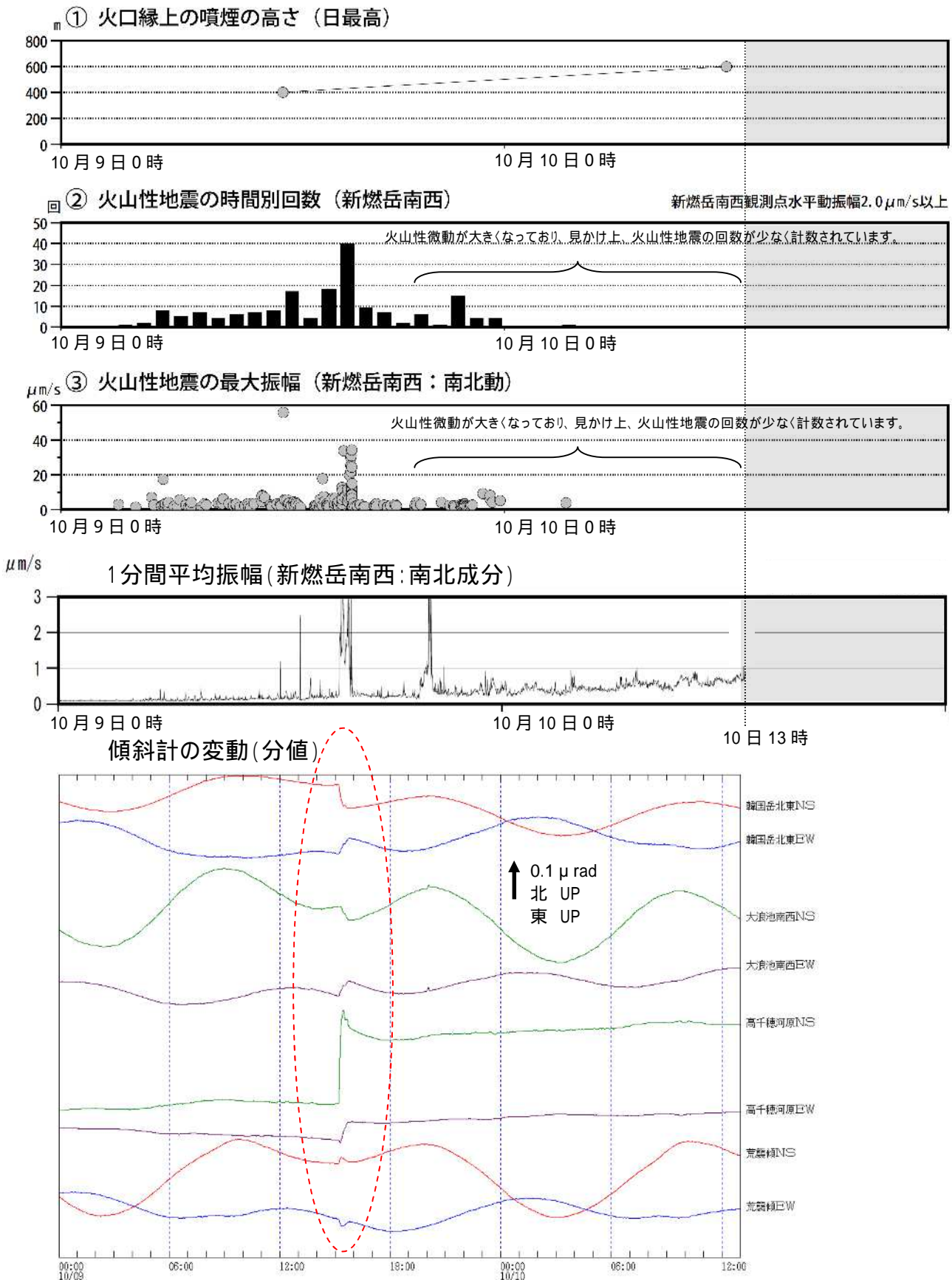


図 1 霧島山（新燃岳） 火山活動経過図 (2017 年 10 月 9 日～2017 年 10 月 10 日 13 時)

- 火山性微動は 9 日 13 時以降、時々発生しています。昨日 (9 日) 15 時 12 分頃から 15 時 53 分頃まで傾斜変動 (図中の赤破線) を伴う火山性微動が発生しました。
- 昨日 22 時過ぎに発生した火山性微動は現在 (10 日 14 時) も継続しています。火山性地震は、多い状態で経過しているものと推定されます。火山性微動が時々大きくなっており、見かけ上、火山性地震の回数が少なく計数されています。



図2 霧島山（新燃岳） 火口内の状況
火口内からまとまった白色の噴煙が高さ 400mまで上がっていました

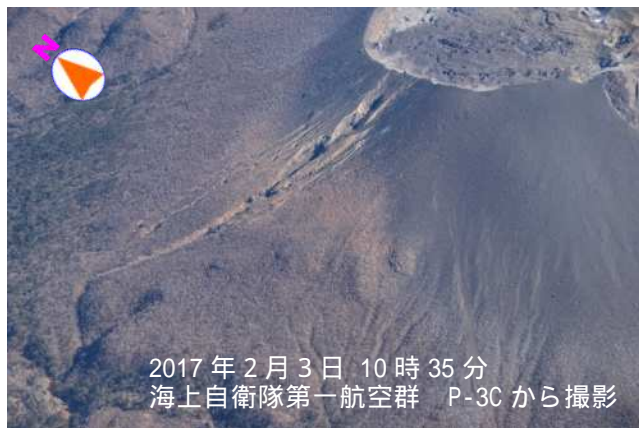


図 3 霧島山（新燃岳） 新燃岳南西側と火口内の状況

- ・火口内では前回（9月28日）の観測と比較して噴煙の量が増加していました。
- ・西側斜面の割れ目付近と割れ目下方の噴気の状態に特段の変化は認められませんでした。

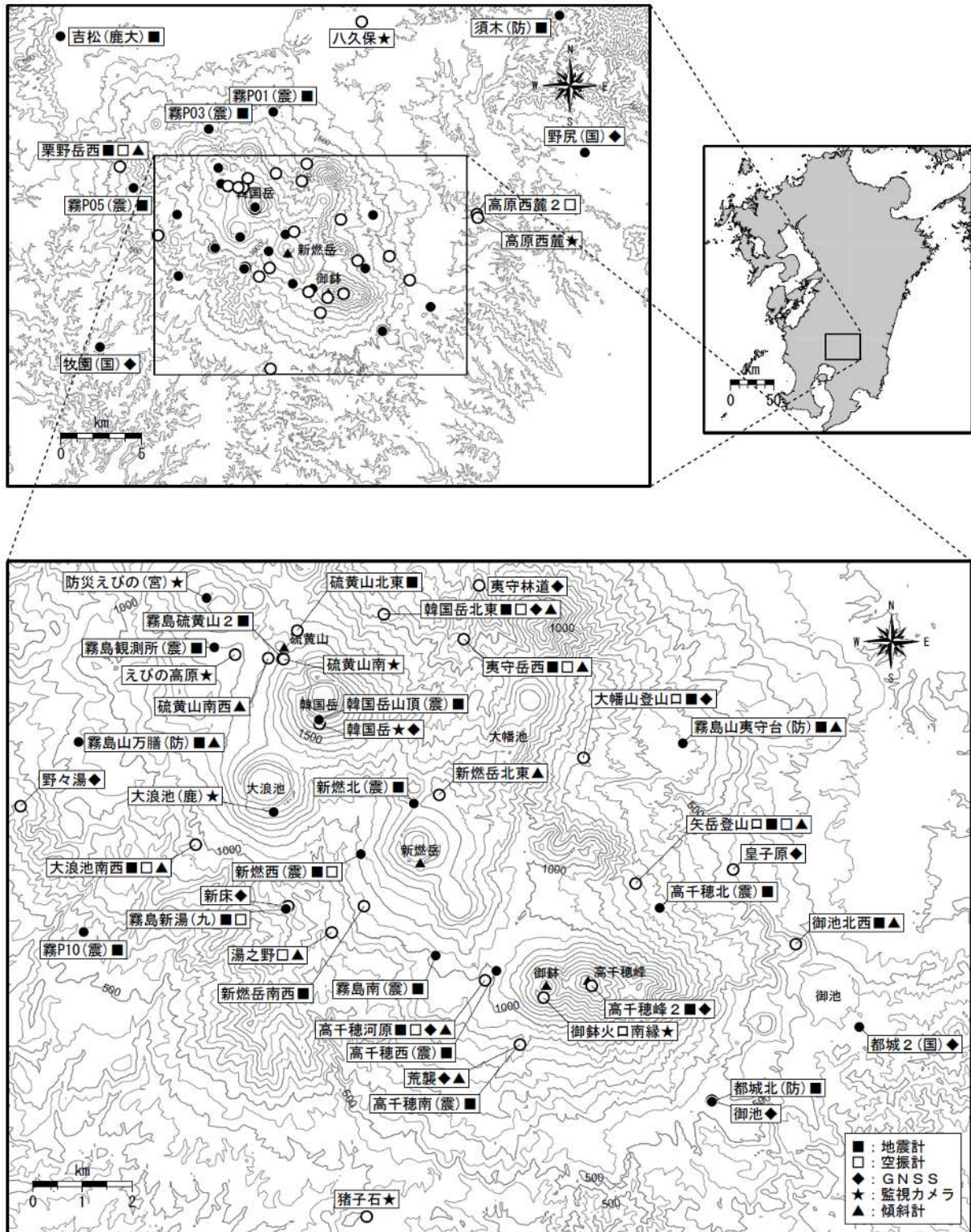


図 4 霧島山 観測点配置図

小さな白丸 () は気象庁、小さな黒丸 () は気象庁以外の機関の観測点位置を示しています。

(国) : 国土地理院、(防) : 防災科学技術研究所、(震) : 東京大学地震研究所

(九) : 九州大学、(鹿大) : 鹿児島大学、(宮) : 宮崎県、(鹿) : 鹿児島県